

## 平成27年度公立高等学校配置計画地域別検討協議会（第2回）【空知南学区】

平成27年7月23日

於 岩見沢市

### < 発言要旨 >

夕張市教育委員会の小林です。

「新たな高校教育に関する指針」に基づく、道内高校の再編整備も9年を迎えたところでもあります。

私どもの町に限っても、ここ9年間で中学卒業生が半数以下となっており、地元高校の存続に対する思いは、今後の街づくりとも関わって大変大きな課題ともなっているところでもあります。

本年春より、地元夕張高校は各学年1学級規模となりましたが、生徒は様々な教育活動を通してそれぞれの夢や希望、目標に向かって頑張っているところでもあります。

5月に開催された「夕張市高校対策委員会」では、市内中学卒業生の進路動向や分析、今後の中学卒業生の推移等の検討の他、「魅力ある夕張高校づくり」についても、市、PTA、高校と一体となりながら考えていこうとの考えから、生徒・保護者のアンケート調査も含めて、現在取り組んでいるところでもあります。

秋ごろまでには一定の方向性を出しながら、今後の対応について、議論を進めていこうとしているところです。

当市は、交通アクセス、地理的条件が大変厳しいことから、地元で高校がなければ高校教育を保障できない生徒がいることも事実であり、たとえ、少人数となっても、進学にも就職にも応えうる高校が必要と考えているところでもあります。

北海道の広域性や地理的状況を考えたとき、今後、いわゆる「センター校・キャンパス校」方式の学校は増加すると考えるものであり、逆に考えるとこの方式の高校の成否こそが新しい北海道の高校の未来でもあろうと考えます。

道教委さんには、加配等、今まで以上のキャンパス校の条件整備に力をいただきますよう、また、それぞれの地域に合った「魅力化づくり」にも力を貸していただきますようお願い申し上げます、私の発言とさせていただきます。